



コマンドライン インターフェイス

概要

この付録では、Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバで使用可能な CLI コマンドについて説明します。

CLI セッションの開始

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの CLI には、次の方法でリモートまたはローカルのロケーションからアクセスできます。

- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページ用ワークステーションなどの Web クライアント ワークステーションからは、SSH を使用して Cisco Unified Communications オペレーティング システムとセキュア接続を確立できます。
- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの CLI には、インストール時に使用したモニタとキーボードから直接アクセスしたり、シリアル ポートに接続されているターミナルサーバを使用してアクセスしたりできます。この方法は、IP アドレスに問題がある場合に行ってください。

開始する前に

次の情報が設定された状態でインストールされていることを確認します。

- プライマリの IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

これらの情報は、Cisco IPT Platform にログインするために必要になります。

次の手順を実行して CLI セッションを開始します。

ステップ 1 アクセス方法に応じて次のいずれかを行います。

- リモート システムから、SSH を使用して Cisco IPT Platform にセキュア接続します。SSH クライアントで次のように入力します。

```
ssh adminname@hostname
```

adminname には管理者 ID を指定し、*hostname* にはインストール中に定義したホスト名を指定します。

たとえば、`ssh admin@ipt-1` と指定します。

- 直接接続から、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

ipt-1 はシステムのホスト名を表します。

管理者 ID を入力します。

いずれの場合も、パスワードの入力を求められます。

ステップ 2 パスワードを入力します。

CLI のプロンプトが表示されます。このプロンプトは管理者 ID を表します。たとえば、次のように表示されます。

```
admin:
```

CLI の基本

ここでは、コマンドラインインターフェイスを使用するための基本的なヒントを示します。

コマンドの補完

コマンドを補完するには、次のように **Tab** キーを使用します。

- コマンドの開始部分を入力し、**Tab** キーを押すと、コマンドが補完されます。たとえば、**se** と入力してから **Tab** キーを押すと、**set** が補完されます。
- コマンド名をすべて入力してから **Tab** キーを押すと、使用可能なすべてのコマンドまたはサブコマンドが表示されます。たとえば、**set** を入力し、**Tab** キーを押すと、すべての **set** のサブコマンドが表示されます。* は、このコマンドにサブコマンドがあることを示します。
- コマンドに達してから **Tab** キーを押し続けると、現在のコマンドラインが繰り返されます。これ以外に追加の拡張はありません。

コマンドのヘルプの取得

任意のコマンドのヘルプを、次の 2 種類の形式で取得できます。

- コマンドの定義と使用例が含まれている詳細ヘルプ
- コマンドの構文のみが含まれている簡易クエリー ヘルプ

手順

CLI プロンプトから詳細なヘルプを取得するには、次のように入力します。

help command

command には、コマンド名またはコマンドとパラメータを指定します。例 A-1 を参照してください。

CLI プロンプトからコマンド構文のみを照会するには、次のように入力します。

command?

command には、コマンド名またはコマンドとパラメータを指定します。例 A-2 を参照してください。



(注) `set` などのメニュー コマンドの後に `?` を入力すると、`Tab` キーを押した場合と同じ結果が得られ、使用可能なコマンドがリスト表示されます。

例 A-1 詳細なヘルプの例

```
admin:help file list activelog

activelog help:
This will list active logging files

options are:
page      - pause output
detail    - show detailed listing
reverse   - reverse sort order
date      - sort by date
size      - sort by size

file-spec can contain '*' as wildcards

Example:
admin:file list activelog platform detail
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   drf
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   log
16 Nov,2004 21:45:43      8,557   enGui.log
27 Oct,2004 11:54:33     47,916  startup.log
dir count = 2, file count = 2
```

例 A-2 クエリーの例

```
admin:file list activelog?
Syntax:
file list activelog file-spec [options]
file-spec  mandatory   file to view
options    optional     page|detail|reverse| [date|size]
```

CLI セッションの終了

CLI プロンプトで `quit` を入力します。リモートからログインしている場合は、ログオフすると `ssh` セッションが終了します。ローカルからログインしている場合は、ログオフするとログインプロンプトに戻ります。

Cisco IPT Platform CLI コマンド

次の各項では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムで使用可能な CLI コマンドとその説明を示します。

delete account

管理者アカウントを削除できます。

コマンド構文

delete account *account-name*

パラメータ

- *account-name* は管理者アカウントの名前を表します。

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の許可の有無：なし

delete dns

DNS サーバの IP アドレスを削除できます。

コマンド構文

delete dns *ip-address*

パラメータ

- *ip-address* は削除する DNS サーバの IP アドレスを表します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

delete ipsec

IPSec ポリシーとアソシエーションを削除できます。

コマンド構文

delete ipsec

```
policy {ALL | policy-name}  
association policy name {ALL | association-name}
```

パラメータ

- *policy-name* は IPSec ポリシーを表します。
- *association-name* は IPSec アソシエーションを表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

delete process

特定のプロセスを削除できます。

コマンド構文

delete process *process-id* [force | terminate | crash]

パラメータ

- *process-id* はプロセスの ID 番号を表します。

オプション

- **force** : プロセスを強制的に停止します。
- **terminate** : オペレーティング システムにプロセスを停止するよう指示します。
- **crash** : プロセスをクラッシュさせクラッシュ ダンプを生成します。

使用方法の説明



(注)

コマンドだけではプロセスを削除できない場合に限り **force** オプションを使用し、**force** オプションでプロセスを削除できない場合に限り **terminate** オプションを使用してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

delete smtp

SMTP ホストを削除できます。

コマンド構文

delete smtp

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

file check

/usr ディレクトリ ツリーのファイルやディレクトリが、最後のフレッシュ インストールまたはアップグレード以降に、追加、削除、またはサイズ変更されていないかを調べ、結果を表示します。

コマンド構文

file check [*detection-size-kb*]

オプション

detection-size-kb には、ファイルの変更をコマンドが表示するのに必要な最小ファイル サイズの変更を指定します。

使用方法の説明

コマンドから、システムのパフォーマンスに影響する可能性があることがユーザに通知され、続行するかどうかの確認が求められます。



注意

このコマンドを実行するとシステムのパフォーマンスに影響する可能性があるため、シスコではこのコマンドはピーク時以外の時間帯に実行することをお勧めしています。

結果には、削除されたファイルと新たに追加されたファイルの両方が表示されます。

デフォルト

detection-size-kb のデフォルト値は 100 KB です。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

file delete

1 つまたは複数のファイルを削除します。

コマンド構文

file delete

```
activelog directory/filename [detail] [noconfirm]
inactivelog directory/filename [detail] [noconfirm]
install directory/filename [detail] [noconfirm]
tftp directory/filename [detail]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は削除するファイルのパスとファイル名を指定します。**filename** にはワイルドカード文字の * を使用できます。

オプション

- **detail** : 削除したファイル名を削除した日付 / 時刻とともにリスト表示します。
- **noconfirm** : 削除のたびに確認を求めずにファイルを削除します。

使用方法の説明



注意

Disaster Recovery System での使用時には可能な場合もありますが、それ以外の場合には、削除したファイルは復旧できません。

アクティブでない側で TFTP データ ファイルを削除すると、アクティブでない側にバージョンを切り替えるときにファイルを手動で復元しなければならない場合があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

インストール ログを削除します。

```
file delete install install.log
```

file dump

ファイルの内容を 1 回に 1 ページずつ画面にダンプします。

コマンド構文

file dump

```
activelog directory/filename [detail] [hex]
inactivelog directory/filename [detail] [hex]
install directory/filename [detail] [hex]
tftp directory/filename [detail] [hex]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** はダンプするファイルのパスとファイル名を指定します。**filename** には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。

オプション

- **detail** : 日付と時刻とともにリスト表示します。
- **hex** : 出力を 16 進表記で表示します。

要件

コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

ファイル `_cdrIndex.idx` の内容をダンプします。

```
file dump activelog cm/cdr/_cdrIndex.idx
```


file get

SFTP を介して別のシステムにファイルを送信します。

コマンド構文

file get

```
activelog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]  
inactivelog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]  
install directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]  
tftp directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は削除するファイルのパスを指定します。*filename* には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。

オプション

- **abstime** : 絶対表記による時間の期間。 *hh:mm:MM/DD/YY hh:mm:MM/DD/YY* の形式で指定します。
- **reltime** : 相対表記による時間の期間。 **minutes** | **hours** | **days** | **weeks** | **months** *value* の形式で指定します。
- **match** : ファイル名を特定のストリングと照合します。 *string value* の形式で指定します。
- **recurs** : サブディレクトリのファイルを含め、すべてのファイルを取得します。

使用方法の説明

コマンドで指定のファイルが識別された後、SFTP ホスト、ユーザ名、パスワードの入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

activelog オペレーティング システム ディレクトリでストリング「plat」に一致するすべてのファイルを取得します。

```
file get activelog platform match plat
```

特定の期間に記録されたすべてのオペレーティング システム ログ ファイルを取得します。

```
file get activelog platform/log abstime 18:00:9/27/2005 18:00:9/28/2005
```

file list

使用可能なログ ディレクトリにあるログ ファイルをリスト表示します。

コマンド構文

file list

```

activelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
inactivelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
install directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
tftp directory [page] [detail] [reverse] [date | size]

```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- *directory* はリスト表示するディレクトリのパスを指定します。*directory* には、ディレクトリ 1 つが解決される場合に限り、ワイルドカード文字の * を指定できます。

オプション

- **detail** : 日付 / 時刻とともに詳細なリストを表示します。
- **date** : 日付でソートします。
- **size** : ファイル サイズでソートします。
- **reverse** : ソート順を逆転します。
- **page** : 出力を 1 回に 1 画面ずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

オペレーティング システムのログ ファイルを詳細情報とともにリスト表示します。

```
file list activelog platform/log page detail
```

CDR リポジトリ内のディレクトリをリスト表示します。

```
file list activelog cm/cdr_repository
```

指定のディレクトリにある CDR ファイルをサイズでリスト表示します。

```
file list activelog cm/cdr_repository/processed/20050812 size
```

file search

ログの内容を検索し、一致する行を 1 回に 1 ページずつ表示します。

コマンド構文

file search

```
activelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
inactivelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy]
[ignorecase] [retime {days | hours | minutes} timevalue]
install directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
tftp directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **reg-exp** は正規表現であることを表します。
- **directory/filename** は検索するファイルのパスを指定します。ワイルドカード文字の * を使用してファイル名のすべてまたは一部を表すことができます。

オプション

- **abstime** : 検索するファイルを作成時刻で指定します。開始時刻と終了時刻を入力します。
- **days|hours|minutes** : ファイルの生存時間の表記を、日数、時間数、分数のいずれにするか指定します。
- **ignorecase** : 検索時に大文字と小文字を区別しません。
- **retime** : 検索するファイルを作成時刻で指定します。検索するファイルの生存時間を入力します。
- **hh:mm:ss mm/dd/yyyy** : 「時:分:秒 月/日/年」の形式による絶対時間です。
- **timevalue** : 検索するファイルの生存時間です。この値の単位は、**{days | hours | minutes}** オプションで指定します。

使用方法の説明

検索用語は正規表現の形式で記述します。正規表現とは、検索パターンを記述した特殊なテキストストリングです。

1 ファイルでのみこの検索用語が見つかった場合、ファイル名が出力の最初に表示されます。複数のファイルでこの検索用語が見つかった場合、出力の各行が、一致した行を含むファイルの名前で始まります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

```
file search activelog platform/log/platform.log Err[a-z] ignorecase
```

file tail

ログ ファイルの末尾を表示（最後の数行を出力）します。

コマンド構文

file tail

```
activelog directory/filename [detail] [hex] [lines]  
inactivelog directory/filename [detail] [hex] [lines]  
install directory/filename [detail] [hex] [lines]  
tftp directory/filename [detail] [hex] [lines]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は末尾を表示するファイルのパスを指定します。ファイル名には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。

オプション

- **detail** : 日付 / 時刻とともに詳細なリストを表示します。
- **hex** : 16 進表記のリストを表示します。
- **lines** : 表示する行数です。

要件

コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

オペレーティング システムの CLI ログ ファイルの末尾を表示します。

```
file tail activelog platform/log/cli00001.log
```

file view

ファイルの内容を表示します。

コマンド構文

file view

```
activelog directory/filename
inactivelog directory/filename
install directory/filename
tftp directory/filename
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は表示するファイルのパスを指定します。**filename** には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の * を使用できます。

使用方法の説明



注意

このコマンドをバイナリ ファイルの表示に使用しないでください。端末セッションが破損する可能性があります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

インストール ログを表示します。

```
file view install install.log
```

特定の CDR ファイルを表示します。

```
file view activelog /cm/cdr_repository/processed/20058012/{filename}
```

run sql

SQL コマンドを実行できます。

コマンド構文

```
run sql sql_statement
```

パラメータ

- *sql_statement* は実行する SQL コマンドを表します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

例

SQL コマンドを実行します。

```
run sql select name from device
```

set account

オペレーティング システムの新規アカウントを設定します。

コマンド構文

```
set account name
```

パラメータ

- *name* は新規アカウントのユーザ名を表します。

使用方法の説明

ユーザ名を入力すると、新規アカウントの特権レベルとパスワードの入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

set commandcount

CLI のコマンド プロンプトを変更し、実行済みの CLI コマンド数を表示するようにします。

コマンド構文

```
set commandcount {enable | disable}
```

パラメータ

- *unit-name* は再生成する証明書の名前を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set ipsec

IPSec のポリシーとアソシエーションを設定できます。

コマンド構文

```
set ipsec
```

```
    policy {ALL | policy-name}
```

```
    association policy-name {ALL | association-name}
```

パラメータ

- *policy-name* は IPSec ポリシーを表します。
- *association-name* は IPSec アソシエーションを表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set logging

ロギングを有効または無効にできます。

コマンド構文

```
set logging {enable | disable}
```

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network dhcp

イーサネットインターフェイス 0 の DHCP を有効または無効にします。イーサネットインターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network dhcp eth0 {enable | disable}
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネットインターフェイス 0 を指定します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。また、シスコでは、IP アドレスの変更時はすべてのノードの再起動を推奨しています。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network dns

プライマリまたはセカンダリの DNS サーバの IP アドレスを設定します。

コマンド構文

```
set network dns {primary | secondary} ip-address
```

パラメータ

- **ip-address** はプライマリまたはセカンダリの DNS サーバの IP アドレスを表します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network dns options

DNS オプションを設定します。

コマンド構文

```
set network dns options [timeout seconds] [attempts number] [rotate]
```

パラメータ

- **timeout** は DNS 要求のタイムアウトを設定します。
- **attempts** は終了するまでの DNS 要求の試行回数を設定します。
- **rotate** は設定されている DNS サーバ間でシステムを巡回させることで負荷を分散します。
- **seconds** は DNS のタイムアウト期間を秒数で指定します。
- **number** は試行回数を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

set network domain

システムのドメイン名を設定します。

コマンド構文

```
set network domain domain-name
```

パラメータ

- **domain-name** は割り当てるシステム ドメインを表します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network failover

Media Convergence Server のネットワーク インターフェイス カードのネットワーク耐障害性を有効または無効にします。

コマンド構文

```
failover {enable | disable}
```

パラメータ

- **enable** はネットワークの耐障害性を有効にします。
- **disable** はネットワークの耐障害性を無効にします。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network gateway

ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

コマンド構文

```
set network gateway ip-address
```

パラメータ

- **ip-address** は割り当てるネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network ip

イーサネット インターフェイス 0 の IP アドレスを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network ip eth0 ip-address ip-mask
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- **ip-address** は割り当てる IP アドレスを表します。
- **ip-mask** は割り当てる IP マスクを表します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network mtu

最大 MTU 値を設定します。

コマンド構文

```
set network mtu mtu_max
```

パラメータ

- **mtu_max** は最大 MTU 値を指定します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

set network max_ip_conntrack

ip_conntrack_max 値を設定します。

コマンド構文

```
set network max_ip_conntrack ip_conntrack_max
```

パラメータ

- `ip_conntrack_max` は `ip_conntrack_max` の値を指定します。

set network nic

イーサネット インターフェイス 0 のプロパティを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network nic eth0 [auto en | dis] [speed 10 | 100] [duplex half | full]
```

パラメータ

- `eth0` は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- `auto` は自動ネゴシエーションを、有効と無効のどちらかに指定します。
- `speed` はイーサネット接続の速度を、10 Mbps と 100 Mbps のどちらかに指定します。
- `duplex` は半二重または全二重に指定します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



(注)

1 回に有効にできるアクティブな NIC は 1 つのみです。



注意

続行する場合は、このコマンドにより NIC のリセット中に一時的にネットワークが切断されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set network pmtud

Path MTU Discovery を有効または無効にします。

コマンド構文

```
set network pmtud [enable | disable]
```

パラメータ

- **enable** は Path MTU Discovery (PMTUD; パス MTU ディスカバリ) を有効にします。
- **disable** は Path MTU Discovery を無効にします。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

set network status

イーサネット 0 のステータスを **up** または **down** に設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network status eth0 {up | down}
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set password

管理者用のパスワードとセキュリティ パスワードを変更できます。

コマンド構文

```
set password {admin | security}
```

パラメータ

- `eth0` は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

使用方法の説明

ユーザに新旧 2 種類のパスワードを入力するように要求します。



パスワードには少なくとも 6 文字が必要です。また、システムでセキュリティの強度が確認され
ます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set smtp

SMTP サーバのホスト名を設定します。

コマンド構文

```
set smtp hostname
```

パラメータ

- `hostname` は SMTP サーバ名を表します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

set timezone

システムの時間帯を変更できます。

コマンド構文

```
set timezone timezone
```

パラメータ

- `timezone` は新しい時間帯を指定します。

使用方法の説明

新しい時間帯を一意に識別するのに十分な文字を入力してください。時間帯で使用する文字は、大文字と小文字が区別されることに注意が必要です。

**注意**

時間帯の変更後はシステムを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

例

時間帯を太平洋標準時に設定します。

```
set timezone Pac
```

set trace

指定のタスクのトレース アクティビティを設定します。

コマンド構文

set trace

```
enable Error tname  
enable Special tname  
enable State_Transition tname  
enable Significant tname  
enable Entry_exit tname  
enable Arbitrary tname  
enable Detailed tname  
disable tname
```

パラメータ

- *tname* はトレースを有効または無効にするタスクを表します。
- **enable Error** はタスクのトレース設定をエラー レベルに設定します。
- **enable Special** はタスクのトレース設定を特別レベルに設定します。
- **enable State_Transition** はタスクのトレース設定を状態遷移レベルに設定します。
- **enable Significant** はタスクのトレース設定を最上位レベルに設定します。
- **enable Entry_exit** はタスクのトレース設定を entry_exit レベルに設定します。
- **enable Arbitrary** はタスクのトレース設定を任意レベルに設定します。
- **enable Detailed** はタスクのトレース設定を詳細レベルに設定します。
- **disable** はタスクのトレース設定を解除します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

set web-security

オペレーティング システムに関する Web セキュリティ証明書情報を設定します。

コマンド構文

```
set web-security orgunit orgname locality state country
```

パラメータ

- *orgunit* は組織ユニットを表します。
- *orgname* は組織名を表します。
- *locality* は組織のロケーションを表します。
- *state* は組織のステータスを表します。
- *country* は組織の国名を表します。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

set workingdir

アクティブなログ、非アクティブなログ、インストール用のログに作業ディレクトリを設定します。

コマンド構文

```
set workingdir
```

```
    activelog directory
```

```
    inactivelog directory
```

```
    install directory
```

```
    tftp directory
```

パラメータ

- **activelog** はアクティブなログの作業ディレクトリを設定します。
- **inactivelog** は非アクティブなログの作業ディレクトリを設定します。
- **install** はインストール ログの作業ディレクトリを設定します。
- **tftp** は TFTP ファイルの作業ディレクトリを設定します。
- *directory* は現在の作業ディレクトリを表します。

要件

コマンド特権レベル：ログは 0、TFTP は 1

アップグレード時の許可の有無：あり

show account

マスター管理者アカウントを除き、現在の管理者アカウントをリスト表示します。

コマンド構文

show account

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の許可の有無 : あり

show cert

証明書の内容と証明書信頼リストを表示します。

コマンド構文

show cert

own *filename*

trust *filename*

list {**own** | **trust**}

パラメータ

- *filename* は認証ファイルの名前を表します。
- **own** は所有する証明書を指定します。
- **trust** は信頼できる証明書を指定します。
- **list** は証明書信頼リストを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

所有する証明書信頼リストを表示します。

```
show cert list own
```

show environment

サーバハードウェアに関する情報を表示します。

コマンド構文

show environment

fans
power-supply
temperatures

オプション

- **fans** : ファンプローブによって収集された情報を表示します。
- **power-supply** : 電源プローブによって収集された情報を表示します。
- **temperatures** : 温度プローブによって収集された情報を表示します。

show firewall list

サーバのシステム動作について表示します。

コマンド構文

show firewall list [detail] [page] [file filename]

オプション

- **detail** : システムで使用可能なすべてのデバイスに関する詳細な統計情報を表示します。
- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に文字「.」が含まれていないことを確認してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show hardware

プラットフォームのハードウェアに関する次の情報を表示します。

コマンド構文

show hardware

使用方法の説明

プラットフォームのハードウェアに関する次の情報を表示します。

- プラットフォーム名
- シリアル番号
- BIOS のビルド レベル
- BIOS の製造業者
- アクティブ プロセッサ
- RAID コントローラのステータス

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show ipsec

IPSec ポリシーとアソシエーションの情報を表示します。

コマンド構文

show ipsec

policy
association *policy*
information *policy association*
status

パラメータ

- **policy** はノードのすべての IPSec ポリシーを表示します。
- **association** はポリシーのアソシエーション リストとステータスを表示します。
- **information** はポリシーのアソシエーションの詳細とステータスを表示します。
- **status** は、システムに定義されているすべての IPsec トンネルのステータスを表示します。
- *policy* は特定の IPSec ポリシーの名前を表します。
- *association* はアソシエーション名を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

IPSec ポリシーを表示します。

```
show ipsec policy
```

show logins

最近のサーバへのログインをリスト表示します。

コマンド構文

show logins *number*

パラメータ

number に表示するログインの直近の数を指定します。デフォルトは 20 です。

show memory

サーバメモリに関する情報を表示します。

コマンド構文

show memory

count
module [ALL | *module_number*]
size

オプション

- **count** : システム上のメモリ モジュール数を表示します。
- **module** : 各メモリ モジュールの詳細情報を表示します。
- **size** : メモリの総量を表示します。

パラメータ

ALL はインストールされているすべてのメモリ モジュールに関する情報を表示します。

module_number は表示するメモリ モジュールを指定します。

show myself

現在のアカウントに関する情報を表示します。

コマンド構文

show myself

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show network

ネットワーク情報を表示します。

コマンド構文

show network

```
eth0 [detail]
failover [detail] [page]
route [detail]
status [detail] [listen] [process] [all] [nodns] [search stext]
ip_conntrack
max_ip_conntrack
dhcp eth0 status
all [detail]
```

パラメータ

- **eth0** はイーサネット 0 を指定します。
- **failover** はネットワークの耐障害性情報を指定します。
- **route** はネットワークのルーティング情報を指定します。
- **status** はアクティブなインターネット接続を指定します。
- **ip_conntrack** は ip_conntrack 使用状況の情報を指定します。
- **max_ip_conntrack** は max_ip_conntrack 情報を指定します。
- **dhcp eth0 status** は DHCP のステータス情報を表示します。
- **all** はすべての基本ネットワーク情報を指定します。

オプション

- **detail** : 追加情報を表示します。
- **page** : 情報を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **listen** : リスニング ソケットのみ表示します。
- **process** : 各ソケットが属するプログラムのプロセス ID と名前を表示します。
- **all** : リスニング ソケットと非リスニング ソケットの両方を表示します。
- **nodns** : DNS 情報を除く数字アドレスを表示します。
- **search stext** : 出力中の stext を検索します。

使用方法の説明

eth0 パラメータはイーサネット ポート 0 の設定 (DHCP と DNS の設定とオプションも含む) を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

アクティブなインターネット接続を表示します。

```
show network status
```

show open

システムのオープン ファイルとオープン ポートを表示します。

構文説明

show open

```
files [all] [process processID] [regexp reg_exp]
ports [all] [regexp reg_exp]
```

パラメータ

- **files** はシステムのオープン ファイルを表示します。
- **ports** はシステムのオープン ポートを表示します。

オプション

- **all** : オープンしているすべてのファイルとポートを表示します。
- **process** : 指定のプロセスに属するオープン ファイルを表示します。
- **processID** : プロセスを指定します。
- **regexp** : 指定の正規表現に一致するオープン ファイルまたはオープン ポートを表示します。
- **reg_exp** : 正規表現

show packages

インストール パッケージの名前とバージョンを表示します。

コマンド構文

show packages

```
active name [page]
inactive name [page]
```

パラメータ

name はパッケージ名を表します。アクティブまたは非アクティブなすべてのパッケージを表示するには、ワイルドカード文字の * を使用します。

オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf counterhelp

指定の perfmon カウンタについて説明するテキストを表示します。

コマンド構文

```
show perf counterhelp class-name counter-name
```

パラメータ

- *class-name* はカウンタを含むクラス名を表します。
- *counter-name* は表示するカウンタを表します。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf list categories

perfmon システムのすべてのカテゴリをリスト表示します。

コマンド構文

```
show perf list categories
```

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf list classes

perfmon クラスまたはオブジェクトをリスト表示します。

コマンド構文

```
show perf list classes [cat category] [detail]
```

オプション

- **detail** : 詳細情報を表示します。
- **cat category** : 指定のカテゴリの perfmon クラスを表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf list counter

指定した perfmon クラスの perfmon カウンタをリスト表示します。

コマンド構文

list counters *class-name* [**detail**]

パラメータ

class-name はカウンタをリスト表示する perfmon クラス名を表します。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

オプション

detail : 詳細情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf list instances

指定した perfmon クラスの perfmon インスタンスをリスト表示します。

コマンド構文

list instances *class-name* [**detail**]

パラメータ

class-name はカウンタをリスト表示する perfmon クラス名を表します。



(注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

オプション

detail : 詳細情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf query class

perfmon クラスを照会してすべてのインスタンスと各インスタンスのカウント値を表示します。

コマンド構文

```
show perf query class class-name [,class-name...]
```

パラメータ

class-name は照会する perfmon クラスを指定します。1 コマンドにつき最大 5 クラスまで指定できます。



(注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

show perf query counter

指定したカウンタを照会し、すべてのインスタンスのカウント値を表示します。

コマンド構文

```
show perf query counter class-name counter-name [,counter-name...]
```

パラメータ

- *class-name* は照会する perfmon クラスを指定します。
- *counter-name* は表示するカウンタを指定します。1 コマンドにつき最大 5 カウンタまで指定できます。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

show perf query instance

指定したインスタンスを照会し、そのすべてのカウンタ値を表示します。

コマンド構文

```
show perf query instance class-name instance-name [,instance-name...]
```

パラメータ

- *class-name* は照会する perfmon クラスを指定します。
- *instance-name* は表示する perfmon インスタンスを指定します。1 コマンドにつき最大 5 インスタンスまで指定できます。



(注) クラス名またはインスタンス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みません。

使用方法の説明

このコマンドは、個別の perfmon クラスには適用されません。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show perf query path

指定した perfmon パスを照会します。

コマンド構文

```
show perf query path path-spec [,path-spec...]
```

パラメータ

- インスタンスベースの perfmon クラスの場合、*path-spec* を *class-name(instance-name)\counter-name* として指定します。
 - 非インスタンスベースの perfmon クラス（個別）の場合、*path-spec* を *class-name\counter-name* として指定します。
- 1 コマンドにつき最大 5 パスまで指定できます。



(注) パス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

```
show perf query path "Cisco Phones(phone-0)\CallsAttempted",
"Cisco Unified Communications Manager\T1ChannelsActive"
```

show process

プロセスと負荷に関する情報を表示します。

コマンド構文

show process

```
load [cont] [clear] [noidle] [num xx] [thread] [cpu] [memory] [time] [specified] [page]
list [page] [short] [detail] [thread] [fd] [cont] [clear] [process id id] [argument id id] [owner name
name]
```

パラメータ

- **load** はアクティブな各プロセスの CPU の負荷を表示します。
- **list** はすべてのプロセスを表示します。

オプション

- **cont** : 引き続きコマンドを続行します。
- **clear** : 出力の表示前に画面をクリアします。
- **noidle** : アイドルプロセスまたはゾンビプロセスを無視します。
- **num xx** : 表示するプロセスの数を設定します (デフォルト=10、**all**=すべてのプロセス)。
- **thread** : スレッドを表示します。
- **cpu** : 出力を CPU の使用状況で表示します。
- **memory** : 出力をメモリの使用状況でソートします。
- **short** : 短いリストで表示します。
- **time** : 出力を時間の使用状況でソートします。
- **page** : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **detail** : 詳細をリスト表示します。
- **process id id** : 特定のプロセス番号またはコマンド名のみ表示します。
- **argument name name** : 引数名を持つ特定のプロセスのみ表示します。
- **thread** : リスト表示にスレッドプロセスを含めます。
- **fd** : プロセスに関連付けられているファイル記述子を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

プロセスの詳細を 1 回に 1 ページずつ表示します。

```
show process list detail page
```

show registry

レジストリの内容を表示します。

コマンド構文

```
show registry system component [name] [page]
```

パラメータ

- *system* はレジストリのシステム名を表します。
- *component* はレジストリのコンポーネント名を表します。
- *name* は表示するパラメータの名前を表します。



(注) すべての項目を表示するには、ワイルドカード文字の * を入力します。

オプション

page : 1 回に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

cm システムの *dbl/sdi* コンポーネントの内容を表示します。

```
show registry cm dbl/sdi
```

show risdb

RIS データベース テーブルに関する情報を表示します。

コマンド構文

```
show risdb
```

```
list [file filename]
```

```
query table1 table2 table3 ...[file filename]
```

パラメータ

- **list** は Realtime Information Service (RIS) データベースでサポートされるテーブルを表示します。
- **query** は RIS テーブルの内容を表示します。

オプション

file filename : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を `platform/cli/filename.txt` に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

RIS データベース テーブルをリスト表示します。

```
show risdb list
```

show smtp

SMTP ホストの名前を表示します。

コマンド構文

```
show snmp
```

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show stats io

システムの IO 統計情報を表示します。

コマンド構文

```
show stats io [kilo] [detail] [page] [file filename]
```

オプション

- **kilo** : 統計をキロバイトで表示します。
- **detail** : システムで使用可能なすべてのデバイスに関する詳細な統計情報を表示し、**kilo** オプションを上書きします。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show status

基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

コマンド構文

show status

使用方法の説明

次の基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

- ホスト名
- 日付
- 時間帯
- ロケール
- 製品バージョン
- プラットフォームのバージョン
- CPU の使用状況
- メモリとディスクの使用状況

要件

コマンド特権レベル : 0

show tech all

すべての **show tech** コマンドの出力を組み合わせて表示します。

コマンド構文

all [page] [file filename]

オプション

- **page** : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech ccm_service

システムで実行可能なすべての Cisco Unified Communications Manager サービスに関する情報を表示します。

コマンド構文

```
show tech ccm_service
```

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech database

データベース全体の CSV ファイルを作成します。

コマンド構文

```
show tech database
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech dbintegrity

データベースの整合性を表示します。

コマンド構文

```
show tech dbintegrity
```

show tech dbinuse

使用中のデータベースを表示します。

コマンド構文

```
show tech dbinuse
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech dbschema

データベース スキーマを CSV ファイルに表示します。

コマンド構文

```
show tech dbschema
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech dbstateinfo

データベースの状態を表示します。

コマンド構文

```
show tech dbstateinfo
```

show tech devdefaults

デバイスのデフォルト テーブルを表示します。

コマンド構文

```
show tech devdefaults
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech gateway

データベースからゲートウェイ テーブルを表示します。

コマンド構文

```
show tech gateway
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech locales

デバイス、デバイス プール、エンドユーザのロケール情報を表示します。

コマンド構文

show tech locales

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech network

サーバのネットワーク動作について表示します。

コマンド構文

show tech network [page] [file filename]

オプション

- **page** : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を `platform/cli/filename.txt` に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech notify

データベース変更通知モニタを表示します。

コマンド構文

show tech notify

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech params all

すべてのデータベース パラメータを表示します。

コマンド構文

show tech params all

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech params enterprise

データベースのエンタープライズ パラメータを表示します。

コマンド構文

show tech params enterprise

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech params service

データベース サービス パラメータを表示します。

コマンド構文

show tech params service

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech prefs

データベースの設定を表示します。

コマンド構文

show tech prefs

show tech procedures

データベースに関して使用中の実行中のプロシージャを表示します。

コマンド構文

show tech procedures

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech routepatterns

システムに設定されているルート パターンを表示します。

コマンド構文

show tech routepatterns

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech routeplan

システムに設定されているルート プランを表示します。

コマンド構文

show tech routeplan

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

show tech runtime

サーバのランタイム動作について表示します。

コマンド構文

show tech params runtime [page] [file filename]

オプション

- **page** : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を `platform/cli/filename.txt` に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech systables

sysmaster データベースのすべてのテーブルの名前を表示します。

コマンド構文

show tech systables

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech system

サーバのシステム動作について表示します。

コマンド構文

show tech system [`page`] [`file filename`]

オプション

- `page` : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- `file filename` : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を `platform/cli/filename.txt` に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech table

指定のデータベース テーブルの内容を表示します。

コマンド構文

```
show tech table table_name [page] [csv]
```

パラメータ

table_name は、表示するテーブルの名前を表します。

オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **csv** : 出力をカンマ区切り形式ファイルに送信します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech triggers

テーブル名とこれらのテーブルに関連付けられているトリガーを表示します。

コマンド構文

```
show tech triggers
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show tech version

インストールしたコンポーネントのバージョンを表示します。

コマンド構文

```
show tech version [page]
```

オプション

Page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

show timezone

時間帯情報を表示します。

コマンド構文

show timezone

config
list [page]

パラメータ

- **config** は現在の時間帯の設定を表示します。
- **list** は使用可能な時間帯を表示します。

オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

show trace

特定のタスクのトレース情報を表示します。

コマンド構文

show trace [task_name]

パラメータ

task_name は、トレース情報を表示するタスクの名前を表します。



(注) パラメータを入力しない場合、使用可能なタスクのリストが返されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

cdp のトレース情報を表示します。

```
show trace cdp
```

show ups status

USB 接続の APC Smart-UPS デバイスの現在のステータスを表示し、監視サービスがまだ開始されていない場合は開始します。

このコマンドによるフルステータス表示は、7835-H2 および 7825-H2 サーバでのみ使用可能です。

コマンド構文

```
show ups status
```

show version

アクティブまたは非アクティブなパーティションで使用するソフトウェアのバージョンを表示します。

コマンド構文

```
show version
```

```
active
```

```
inactive
```

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

show web-security

現在の Web セキュリティ証明書の内容を表示します。

コマンド構文

```
show web-security
```

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

show workingdir

activelog、inactivelog、install、TFTP の現在の作業ディレクトリを取得します。

コマンド構文

```
show workingdir
```

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

unset ipsec

IPSec のポリシーとアソシエーションを無効にできます。

コマンド構文

unset ipsec

```
policy {ALL | policy-name}  
association policy-name {ALL | association-name}
```

パラメータ

- *policy-name* は IPSec ポリシーの名前を表します。
- *association-name* は IPSec アソシエーションの名前を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

unset network

DNS オプションの設定を解除します。

コマンド構文

```
unset network dns options [timeout] [attempts] [rotate]
```

パラメータ

- **timeout** は DNS クエリーのデフォルト設定が失敗したとシステムが判断するまでの待機時間を設定します。
- **attempts** はデフォルト設定に失敗するまでの DNS の試行回数を設定します。
- **rotate** はデフォルト設定をするネームサーバの選択方法を設定します。この設定によりネームサーバ間での負荷分散の方法が変化します。

使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

utils core list

既存のすべてのコア ファイルをリスト表示します。

コマンド構文

```
utils core list
```


utils core analyze

指定のコア ファイルのバックトレース、スレッドリスト、すべての CPU レジスタの現在の値を生成します。

コマンド構文

`utils core analyze core file name`

パラメータ

- `core file name` はコア ファイルの名前を指定します。

使用方法の説明

このコマンドによって、コア ファイルと同じ名前で拡張子 `.txt` の付いたファイルがコア ファイルと同じディレクトリに作成されます。このコマンドは、アクティブなパーティションでのみ動作します。

utils csa disable

Cisco Security Agent (CSA) を停止します。

コマンド構文

`utils csa disable`

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils csa enable

Cisco Security Agent (CSA) を有効にします。

コマンド構文

`utils csa enable`

使用方法の説明

CSA を有効にするかどうかの確認を求められます。



注意

CSA.ca の起動後はシステムを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils csa status

Cisco Security Agent (CSA) の現在のステータスを表示します。

コマンド構文

```
utils csa status
```

使用方法の説明

CSA の稼働状況が表示されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils dbreplication status

データベースの複製のステータスを表示します。このコマンドはクラスタの最初のノード（パブリッシャ サーバ）でのみ実行してください。

コマンド構文

```
utils dbreplication status
```

utils dbreplication stop

データベースの複製の自動セットアップを停止します。

コマンド構文

```
utils dbreplication stop
```

utils dbreplication repair

データベースの複製を修復します。

コマンド構文

```
utils dbreplication repair
```

utils dbreplication reset

データベースの複製をリセットおよびリスタートします。

コマンド構文

```
utils dbreplication reset
```

utils disaster_recovery backup tape

バックアップ ジョブを開始し、生成される tar ファイルをテープに格納します。

コマンド構文

backup tape *featurelist* *tapeid*

パラメータ

- *featurelist* はバックアップする機能をカンマで区切ったリストです。
- *tapeid* は使用可能なテープ デバイスの ID を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils disaster_recovery backup network

バックアップ ジョブを開始し、生成される tar ファイルをリモート サーバに格納します。

コマンド構文

backup network *featurelist* *path* *servername* *username*

パラメータ

- *featurelist* はバックアップする機能をカンマで区切ったリストです。
- *path* はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。
- *servername* はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。

使用方法の説明



(注)

リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils disaster_recovery cancel_backup

継続中のバックアップ ジョブをキャンセルします。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery cancel_backup
```

使用方法の説明

バックアップ ジョブをキャンセルするかどうか確認を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils disaster_recovery restore_tape

復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をテープから取り出します。

コマンド構文

```
restore_tape server tarfilename tapeid
```

パラメータ

- *server* は復元するサーバのホスト名を指定します。
- *tarfilename* は復元するファイル名を指定します。
- *tapeid* は復元ジョブを実行するテープ デバイスの名前を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils disaster_recovery restore_network

復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をリモート サーバから取り出します。

コマンド構文

```
restore_network restore_server tarfilename path servername username
```

パラメータ

- *restore_server* は復元するサーバのホスト名を指定します。
- *tarfilename* は復元するファイル名を指定します。
- *path* はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。
- *servername* はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。

使用方法の説明



(注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils disaster_recovery show_backupfiles network

復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をリモート サーバから取り出します。

コマンド構文

utils disaster_recovery show_backupfiles network *path servername username*

パラメータ

- *path* はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。
- *servername* はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。

使用方法の説明



(注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils disaster_recovery show_backupfiles tape

テープに格納されているバックアップ ファイルの情報を表示します。

コマンド構文

utils disaster_recovery show_backupfiles tape *tapeid*

パラメータ

- *tapeid* は使用可能なテープ デバイスの ID を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils disaster_recovery show_registration

指定のサーバに登録されている機能およびコンポーネントを表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_registration hostname
```

パラメータ

- *hostname* は登録情報を表示するサーバを指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

utils disaster_recovery show_tapeid

テープ デバイス ID のリストを表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_tapeid
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

utils disaster_recovery status

現在のバックアップまたは復元ジョブのステータスを表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery status operation
```

パラメータ

- *operation* には **backup** または **restore** のいずれかを継続中の操作名として指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

utils fior

サーバの I/O を監視できます。ファイル I/O レポート サービスは、プロセス単位のファイル I/O 情報を収集するカーネル ベースのデーモンを実行します。

コマンド構文

utils fior

disable

enable

list

start

status

stop

top

オプション

- **disable** : マシンのブート時にファイル I/O レポート サービスが自動的に開始しないようにします。このコマンドは、リブート時以外はサービスを停止しません。サービスを即時に停止するには、**stop** オプションを使用します。
- **enable** : マシンのブート時にファイル I/O レポート サービスの自動的な開始を有効にします。このコマンドは、リブート時以外はサービスを開始しません。サービスを即時に開始するには、**start** オプションを使用します。
- **list** : ファイル I/O イベントを最も古いものから最新の順に時系列でリスト表示します。
- **start** : 停止されていたファイル I/O レポート サービスを開始します。サービスは手動で停止されるかマシンがリブートされるまで、開始された状態を維持します。
- **status** : ファイル I/O レポート サービスのステータスを表示します。
- **stop** : ファイル I/O レポート サービスを停止します。サービスは手動で開始されるかマシンがリブートされるまで停止された状態を維持します。
- **top** : ファイル I/O の実行数が最多のものからプロセスをリスト表示します。このリストは、読み取られた総バイト数、書き込まれた総バイト数、バイト読み取り率、またはバイト書き込み率でソートできます。

utils iothrottle enable

I/O スロットリング拡張を有効にします。有効にすると、I/O スロットリング拡張により、アクティブなシステムに対するアップグレードの影響が抑えられます。

コマンド構文

utils iothrottle enable

utils iothrottle disable

I/O スロットリング拡張を無効にします。このコマンドにより、アップグレード時にシステムに影響がおよぶ可能性があります。

コマンド構文

utils iothrottle disable

utils iothrottle status

I/O スロットリング拡張のステータスを表示します。

コマンド構文

```
utils iothrottle status
```

utils netdump client

netdump クライアントを設定します。

コマンド構文

```
utils netdump client
```

```
start ip-address-of-netdump-server
status
stop
```

パラメータ

- **start** は netdump クライアントを起動します。
- **status** は netdump クライアントのステータスを表示します。
- **stop** は netdump クライアントを停止します。
- *ip-address-of-netdump-server* はクライアントが診断情報を送信する netdump サーバの IP アドレスを指定します。

使用方法の説明

カーネルのパニック クラッシュのイベントが発生すると、netdump クライアントは netdump サーバに診断情報を送信します。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

utils netdump server

netdump サーバを設定します。

コマンド構文

utils netdump server

```
add-client ip-address-of-netdump-client  
delete-client ip-address-of-netdump-client  
list-clients  
start  
status  
stop
```

パラメータ

- **add-client** は netdump クライアントを追加します。
- **delete-client** は netdump クライアントを削除します。
- **list-clients** はこの netdump サーバに登録されているクライアントをリスト表示します。
- **sstart** は netdump サーバを起動します。
- **status** は netdump サーバのステータスを表示します。
- **stop** は netdump サーバを停止します。
- *ip-address-of-netdump-client* は netdump クライアントの IP アドレスを指定します。

使用方法の説明

カーネルのパニック クラッシュのイベントが発生すると、netdump が有効なクライアントシステムは netdump サーバに診断情報を送信します。

netdump 診断情報は、netdump サーバの *crash/* に格納されます。クライアントの IP アドレスおよび日付で名前が構成されるサブディレクトリに netdump 情報が含まれています。

各 Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバは、netdump のクライアントとサーバのどちらとしても動作するように設定できます。

サーバが別の Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバ上にある場合は、カーネルパニック トレース シグニチャのみがサーバに送信され、それ以外の場合はコア ダンプ全体が送信されます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

utils network arp

このコマンドは、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) テーブルのエントリをリスト表示、設定、または削除します。

コマンド構文

utils network arp

```
list [host host] [page] [numeric]
set {host} {address}
delete host
```

パラメータ

- **list** はアドレス解決プロトコル テーブルの内容をリスト表示します。
- **set** はアドレス解決プロトコル テーブルのエントリを設定します。
- **delete** はアドレス解決プロトコル テーブルのエントリを削除します。
- **host** はテーブルに追加したりテーブルから削除したりするホストのホスト名または IP アドレスを表します。
- **address** は削除するホストの MAC アドレスを表します。MAC アドレスは、XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力してください。

オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **numeric** : ホストをドット付き IP アドレスで表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils network capture eth0

指定したイーサネット インターフェイスの IP パケットをキャプチャします。

コマンド構文

```
utils network capture eth0 [page] [numeric] [file fname] [count num] [size bytes] [src addr] [dest addr] [port num]
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
page オプションまたは file オプションを使用する場合は、コマンドを終了する前に要求したすべてのパケットのキャプチャ全体が終了している必要があります。
- **numeric** : ホストをドット付き IP アドレスで表示します。
- **file fname** : 情報をファイルに出力します。
file オプションは情報を platform/cli/fname.cap に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。
- **count num** : キャプチャするパケットの数のカウントを設定します。
画面出力の最大カウントは 1000 で、ファイル出力の最大カウントは 10,000 です。

- **size bytes** : キャプチャするパケットのバイト数を設定します。
画面出力の最大バイト数は 128 で、ファイル出力の最大バイト数は **ALL** です。
- **src addr** : パケットの送信元アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **dest addr** : パケットの宛先アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **port num** : 送信元または宛先のパケットのポート番号を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils network host

ホスト名からアドレスを解決したりアドレスからホスト名を解決したりします。

コマンド構文

```
utils network host hostname [server server-name] [page] [detail] [srv]
```

パラメータ

- *hostname* は解決するホスト名または IP アドレスを表します。

オプション

- *server-name* : 代替ドメイン ネーム サーバを指定します。
- **page** : 出力を 1 回に 1 画面ずつ表示します。
- **detail** : 詳細をリスト表示します。
- **srv** : DNS SRV レコードを表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils network ping

別のサーバに ping を実行できます。

コマンド構文

```
utils network ping destination [count]
```

パラメータ

- *destination* は ping するサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

オプション

- *count* : 外部サーバを ping する回数を指定します。デフォルトのカウン트는 4 です。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils network tracert

リモートの宛先に送信される IP パケットをトレースします。

コマンド構文

utils network tracert *destination*

パラメータ

- *destination* はトレースを送信するサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils ntp

NTP のステータスまたは設定を表示します。

コマンド構文

utils ntp {*status* | *config*}

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils remote_account

リモートアカウントの有効化、無効化、作成、ステータスの確認ができます。

コマンド構文

utils remote_account

status

enable

disable

create *username* *life*

パラメータ

- *username* はリモート アカウントの名前を指定します。ユーザ名に使用できるのは小文字のみで 6 文字以上が必要です。
- *life* はアカウントの生存期間を日数で指定します。指定の日数が経過すると、アカウントは無効になります。

使用方法の説明

リモートアカウントからパスワードが生成されます。このパスワードを使用して、シスコシステムズのサポート担当者は、指定された生存期間中にシステムにアクセスできます。1 回に有効にできるリモートアカウントは 1 つのみです。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

例

```
utils remote_account status
```

utils reset_ui_administrator_name

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページの管理者アカウント名をリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_ui_administrator_name
```

utils reset_ui_administrator_password

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページのパスワードをリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_ui_administrator_password
```

utils service list

すべてのサービスおよびそれらのステータスのリストを取得します。

コマンド構文

```
utils service list [page]
```

オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

utils service

サービスを停止、開始、またはリスタートします。

コマンド構文

utils service

```
start service-name
stop service-name
restart service-name
auto-restart {enable | disable | show} service-name
```

パラメータ

- *service-name* は停止または開始するサービスの名前を表します。次に例を示します。
 - System NTP
 - System SSH
 - Service Manager
 - A Cisco DB
 - Cisco Tomcat
 - Cisco Database Layer Monitor
 - Cisco Unified Serviceability
- **enable** は自動再起動を有効にします。
- **disable** は自動再起動を無効にします。
- **show** は自動再起動のステータスを表示します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

utils sftp handshake

クラスタのすべてのメンバー間で SFTP SSH キーを交換します。

コマンド構文

utils sftp handshake

utils snmp test

ローカルの syslog、リモートの syslog、および SNMP トラップにサンプルアラームを送信して SNMP ホストをテストします。

コマンド構文

utils snmp test

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

utils soap realthimeservice test

リモート サーバでいくつかのテスト ケースを実行します。

コマンド構文

```
utils soap realthimeservice test remote-ip remote-https-user remote-https-password
```

パラメータ

- *remote-ip* はテスト対象サーバの IP アドレスを指定します。
- *remote-https-user* は SOAP API へのアクセス権を持つユーザ名を指定します。
- *remote-https-password* は SOAP API へのアクセス権を持つアカウントのパスワードを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils system

同一パーティション上のシステムの再起動、非アクティブなパーティション上のシステムの再起動、またはシステムのシャットダウンができます。

コマンド構文

```
utils system {restart | shutdown | switch-version}
```

使用方法の説明

utils system shutdown コマンドのタイムアウトは 5 分間です。システムが 5 分以内にシャットダウンしない場合、このコマンドによって強制シャットダウンのオプションが提供されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

utils system upgrade

サーバのアップグレードを実行できます。

コマンド構文

utils system upgrade

```
cancel
get {local | remote} filename
list {local | remote} path
start
```

パラメータ

- **cancel** はアクティブなアップグレードをキャンセルします。
- **get** はアップグレード用のファイルを取得します。
- **local** はアップグレードファイルがローカルドライブにあることを指定します。
- **remote** はアップグレードファイルがリモートシステムにあることを指定します。
- **filename** はアップグレードファイルの名前を指定します。
- **path** はアップグレードファイルのパスを指定します。
- **list** は使用可能なアップグレードファイルをリスト表示します。
- **start** は **get** パラメータで取得したアップグレードファイルを使用してアップグレードを開始します。

使用方法の説明

システムをアップグレードするには、次の主要手順を実行します。

1. **utils system upgrade list** コマンドを使用して、アップグレード元となるローカルディスクまたはリモートサーバ上で使用可能な .iso アップグレードファイルをリスト表示します。
2. **utils system upgrade get** コマンドを使用して、使用するアップグレードファイルを取得します。
3. **utils system upgrade start** コマンドを使用して、取得したアップグレードファイルからアップグレードを開始します。